

Forest 通信

H29

6

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.340

巻頭 photo

高尾山の生きものたち

オオトラフコガネ (コガネムシ科)

日影沢でオオトラフコガネ(12~16mm)を初めて見た時、独特な背面の模様で魅せられ、それ以来この虫のファンになりました。出現する時期は初夏から盛夏で、この虫を見たくて山を訪れる昆虫ファンも多く見かけます。

昆虫や山野草は自然界の大切な住人ですが、今や昆虫は採集され植物は盗掘される始末。大切な自然界の宝物を守らなければ、やがて人間界にっぺ返しが!

今月の一句

「この衣装 神のデザイン 絶品だ」

(フォレストサポートスタッフ 大作栄一郎)



二美ちゃん 富ちゃん 皿ちゃんの

~卯の花~ (ウツギ)



Vol.22



ガクウツギ(ユキノシタ科)、ミツバウツギ(ミツバウツギ科)、コゴメウツギ(バラ科)、ツクバネウツギ(スイカズラ科)などが高尾山を彩っている。それぞれウツギの名をつけているが、これらは(〇科)に記入したとおり科の違う植物たちである。

標準和名にウツギと付いた植物は他にもあり、手元の植物図鑑で調べたところ、ユキノシタ科、スイカズラ科、ミツバウツギ科、バラ科、フジウツギ科、ドクウツギ科にあり、6科合わせて30種以上が記載されていた。

ウツギの名をつけた植物の中でも、多くの人々に親しまれているのは、ユキノシタ科ウツギ属のウツギ(ウノハナ)ではないだろうか。唱歌「夏はきぬ」で「卯の花の匂う垣根に時鳥(ほととぎす) 早もき鳴きて忍音(しのびね) もらす夏はきぬ」と歌われ、美しい歌詞、親しみやすい音律により、初夏の情景の中に咲き誇る「卯の花」が人々の心に宿っているのではないだろうか。

私はこの歌の「匂う垣根」の匂うを臭覚の匂うだと理解していた。ある時ウツギ(卯の花)が臭わないことに気付き調べたところ、匂うには美しいなどの意味があることが分かり浅学の身を恥じた。

高尾山には上記以外にも多くのウツギがあり、その数は10種以上になると思う。それぞれ科や属の違うウツギを見比べてみてはいかがでしょうか。

(二美)



マルバウツギ



ウツギ(ウノハナ)

森林カレッジⅠ ～森林の見方～ 公募イベント

5月20日（土）に「平成29年度森林カレッジⅠ～森林の見方～」を開催しました。このイベントは森林・林業に興味を持つ一般の方を対象とし年間を通じて4回開催していますが、今年度は抽選により36名が参加となっています。

初回は講師として森林・自然環境技術者教育会会長の桜井尚武（さくらいしょうぶ）先生をお招きし「森林（もり）の見方」についての講義（午前）と森林観察（午後）を行いました。午前の講義では、数億年前の地球環境の変動の様子や、人類が現れてから現在まで飢餓と闘いながら生き延びてきた過程、人口の増加による森林の変化、高尾山における森林の様子など多彩な内容となっています。参加者からは「興味深い内容。もう少し時間がほしかった…」などの感想をいただきました。

午後からは高尾登山をしながらの森林観察です。ルートは稲荷山コースを歩きます。急勾配のポイントもありますが、尾根沿いを進む気持ちのいいコースです。途中、展望台付近では新宿の高層ビル群などを一望することが出来ました。そしてヒノキや広葉樹の巨木の中を進んでいくと東京とは思えない幻想的な雰囲気です。説明ポイントに到着して講師から説明を受けている様子は、みなさんとても真剣でした。天候にも恵まれ、実際に植物や樹木を見ながら充実した時間を過ごすことができました。

今回を含め、森林カレッジⅠからⅣまで計4回の開催を通じ同一メンバーで学習していきます。当センターでは各種イベントの実施にあたりFSS（フォレストサポートスタッフ）にお手伝いをいただいておりますが、その殆どが森林カレッジ受講生の出身です。おそらく今年度の受講生の中からも、高尾森林ふれあい推進センターのイベントを支えていただく貴重な人材が育ってくれることでしょう。（磯）



絶好の登山日より



高尾山の自然を満喫



楽しかったです♪



真剣なまなざしで・・・



次回も頑張るぞ！

炭が焼けたよ！



横浜市立 谷本小学校

5月18～19日（木・金）に横浜市立谷本小学校6年生が炭焼き体験を行いました。谷本小学校は、例年この時期に2泊3日の宿泊体験を実施しており、学校の敷地内にある竹林を整備する過程で切り出される竹を材料にして炭焼きを行っています。昨年12月、当時5年生だった子どもたちが竹割りをしたものです。

前日、高尾山登山を実施した子どもたちの顔には多少疲れた様子もうかがえましたが、「おはようございます」「今日はよろしくお願いします」と元気よく近くのバス停から歩いてきた子どもたちは、背負ってきた荷物を整理し、早速、体験の準備に取りかかります。当日の天気予報は雷雨もあるかもしれないと職員を不安にさせる状況でしたが、炭焼きの説明を受けた後は、伏せ焼き窯班とドラム缶窯班に分かれ炭材詰めから子どもたちが積極的に行動しました。熱風を送り込む際には、代わる代わる団扇（うちわ）で扇ぎ続けていました。30分から1時間ほどで安定燃焼に入り昼食タイム。デザートは焼き芋でした。

午後からは花炭体験と丸太切り体験を行い、花炭の入っている空き缶のふたを開けた子どもたちからは「すご～い」「あっ、こわれちゃった～」などの声が聞こえてきました。炭焼き体験1日目の日程を終えた子どもたちは、衣服等に煙の匂いを染みこませたまま宿泊施設へ向け帰って行きました。

2日目は前日体験した炭焼きの窯出しです。「おはようございます」「今日もよろしくお願いします」と元気のいい声で登ってきました。前日に自分たちが体験した窯の前に集合し、職員の指導で窯が開けられていきました。出てきた炭に子どもたちは「ちゃんと焼けてる～」「ピカピカひかっている～」「虹色だ～」などはしゃいでいました。炭出し後は、キャンプ場まで下り森林教室と森林散策を行いました。森林教室では環境に関する講義を中心に勉強し、森林散策では職員の話に興味深く聞いてました。

3日間の宿泊学習のうち、2日間をセンターの職員とともに過ごしたことで親しみもわき、「センターの方々にはいろいろな体験をさせていただきました。ありがとうございました。」と丁寧な挨拶と、前日に作成したのか子どもたち一人一人のメッセージが書かれた手紙をいただき職員一同感激していました。子どもたちは体験学習を終え、高尾の思い出を胸に帰路につきました。（清）



丸太を上手に切れたね！

三鷹西野保育園

5月23日(火)に東京都三鷹市の三鷹西野保育園で出前森林教室を行いました。年長さん24名が、パワーポイントの紙芝居「森のスギちゃん」と丸太切り体験、キーホルダー作りに挑戦しました。

到着するやいなや「オジサン、どこから来たの?」「わー、紙芝居見るの?!」と質問攻めでしたが、紙芝居が始まると、喧噪は嘘のように静まって園児たちは真剣に聞き入っている様子でした。

紙芝居の後は、お待ちかねの丸太切りです。初めて使うであろう「ノコギリ」を目にすると、歓声を上げる子供のほかに、明らかに不安そうな眼差しも感じました。オジサンのサポートがあるとはいえ、緊張した時間を過ごした園児たちは、ちょっと疲れた様子も見せました。

そして最後はキーホルダー作りに挑戦です。丸太の輪切りにそれぞれが個性的な絵を描いてカラフルなキーホルダーが完成しました。

初夏のような陽気の中、園児たちは心地よい汗をかきながら頑張って一日を過ごしました。(磯)



丸太切りにチャレンジ!

頑張ったよ☆キーホルダー作り



楽しかった紙芝居♪

～高尾森林ふれあい推進センター協定イベント～

“森の遊び人”こと

山田陽治さんと ～高尾自然観察会～

山田陽治さんプロフィール

「モリゾー・キッコロ森へ行こうよ!」(NHKEテレ)に出演。
森・川・海と様々なフィールドで自然遊びを教えているナチュラリスト。
自然体験教育研究会NEES代表。

開催日：平成29年7月22日(土)
集合：JR高尾駅北口9：45
時間：9：45～15：00
参加費：1,200円(保険代+資料代等)
募集人数：約40名(先着順)

応募方法：メールに下記を記載して応募願います。
①住所、②氏名・年齢(参加者全員)
③連絡先(メールアドレス)、④電話番号
問合せ先：特定非営利活動法人 森と人のネットワーク
メールアドレス：moriijin.network@gmail.com
電話：080-3430-3010

編集後記

地球温暖化なのだろうか、近頃やけに気温差が激しい。5月末なのに35度を記録したり、天候が崩れると肌寒い日も。そして6月の声を聞くと梅雨の心配が。森林教室やイベント等では雨は避けたい。でも雨の時に出てくる生き物もいたりして捨てがたい気持ちもちよっとはあるが。ううん、やっぱり晴れがベスト。イベントの時は頼むから晴れてくれ!(磯)

Forest 通信 No.340

発行：林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター
【ご意見、ご要望及びイベント情報のお問合せ先】
林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1
電話 050-3160-6040 FAX042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>